



⑫ 化石とのすてきな出会い

「何がおもしろくて恐竜を掘るのですか？」

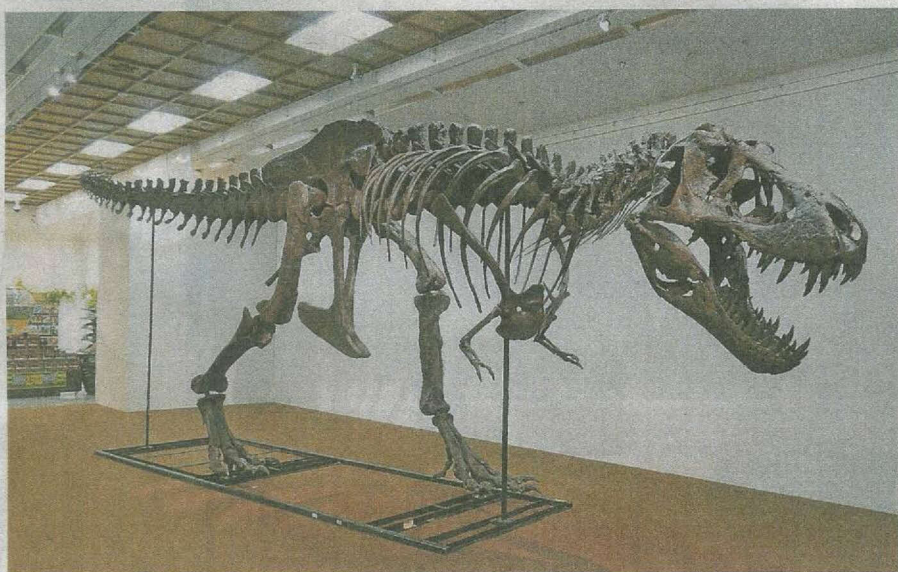
とよく問われます。「大昔の地球に実際に生きていた1匹の恐竜と友達になれたような気がするから」というのが私の素直な気持ちです。

自分が掘り出している骨の化石のざらざらした部分には筋肉が付いていた。小さな穴に



このタルボサウルスも古生物学者が発掘して紹介したからこそ、よく知られた化石になりました(モンゴルの古生物学博物館にて)

大昔の地球からの手紙



ティラノサウルスの骨格を組み上げ、大昔の地球にこのような生物がいたことを人々に伝えるのも古生物学者の仕事です(倉敷市立自然史博物館所蔵標本)

は神経や血管が通っていた。それらがつながって1匹の恐竜として運動していた。足跡の化石からは歩く恐竜が見えてきます。卵の化石からは赤ちゃんの様子が目に浮かびます。「研究して友達の姿や生活を紹介しなくては！」と思えます。

化石は大昔の地球が残してくれた手紙のよなものですよ。私たち研究者が掘り出さなければ雨風にさらされて消えてしまう。そうすると、その恐竜が地球上にいたことがあると

いう記録が永遠にこの世から消え去ってしまふ。かわいそうですよ。私がその化石を見つけたのは偶然ですが、実は大昔の1匹の恐竜と私のすてきな出会い、それを大事にしたいと思っています。

骨や卵、足跡の化石は普通の人には単なる石や地面のくぼみしか見えません。私はそれを人々が分かるように紹介できます。これが古生物学者の仕事です。これからも大昔の友達のことを紹介し続けます。(おわり)